

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立新居浜工業高等学校
学校番号(7)

評価実施日	令和5年2月15日(水) 書面開催		
委員	氏名	所属等	備考
	中川 文生	学校評議員	
	平田 利實	学校評議員	
	久保 弥生	学校評議員	
	井上 美樹	学校評議員	
	神野 恵介	学校評議員	
	藤田 秀喜	新居浜市青少年センター所長	
	箱岡 一郎	新居浜市少年補導委員協議会会長	
	松原 広	新居浜市経済部産業振興課長	
	曾根 啓夫	P T A会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>(1) 教育目標</p> <p>教育目標は分かりやすく適切なものであると思いますが、昨年よりアンケート評価が少し落ちている。今後も人材育成に力を入れてほしい。</p> <p>豊かな人間性を身に付けるには読書と部活動が効果的なので、具体的な目標を作ると良い。創造性を身に付けるには、知財教育を行うと具体的に目標も見つけやすい。弁理士による講演や成功物語を聴くと夢を持つようになって、ものづくりに熱心に関わり勉強するようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none">・今後とも「ものづくり教育」と「こころの教育」を通して、生徒に充実感や達成感を味わわせる活動を推進し、人材の育成に力を入れていきたい。数値が下がっていることに危機感を持ち、提言でいただいた具体的方策についても実施可能か検討していきたい。
<p>(2) 学習指導</p> <p>生徒の「授業に対する満足度」も高く、先生方は授業の充実に向けて熱心に取り組んでいることがうかがえた。一方、約8割の生徒が一日に2時間以上も携帯電話・スマートフォンを使用している状況で、テスト中の家庭学習時間が年々減少しており、改善策を講じる必要がある。一人一台端末、電子黒板、ホワイトボードの活用、観点別評価の導入など、授業や評価の在り方が激変している状況だと思うが、今後も授業改善に尽力していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・生徒の授業に対する満足度が高く、教員の授業改善の取組への一定の評価があるものの、改善は継続する。・特にテスト期間中の家庭学習時間は御指摘のとおり状況にあり、授業内容と課題の精選、評価方法の適正化に、より改善を目指す。この課題は各家庭の御支援・御協力が必要不可欠であるため、学校の教科指導・生徒指導に御理解を求め、家庭と連携して取り組んでいきたい。

<p>(3) 学校経営</p> <p>ホームページや公式ツイッターの開設、保護者のメール配信(登録率96%)など、学校からの情報発信は非常に充実しており、素晴らしい。</p> <p>コロナ禍のため学校行事に参加できないが、配慮の届いた広報で校内の様子がよく分かり、関係者も安心して子供たちを任せられると実感していると思う。</p> <p>ホームページ等のQRコードを印刷したカードや名刺等を作り、保護者だけではなく、企業や団体、地域にも配って学校をPRすべきだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校行事や部活動、企業見学や検定など学習に関する取組など、生徒の様々な活動の様子を伝えるように努めていきたい。 ・名刺に学校のホームページ等のQRコードを記載し、企業などにアピールするアイデアはぜひ取り入れていきたい。
<p>(4) 工業教育</p> <p>アンケートの評価は昨年度よりも更に高い結果であり、各種協議会等の実績も素晴らしい。ものづくり活動を通して地域にも大きく貢献しており、生徒は自己有用感や達成感を持つことができていると思う。ジュニアマイスターについての数値目標はレベルの高いものであろうと推測しているが、今後も難しいことにチャレンジしていく生徒が増えていくことを期待している。</p> <p>地域と連携しながら、ものづくりに関わる生徒の育成によく努めていただき、感謝しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に翻弄されながらも各種競技会では生徒・学校・家庭・地域の献身的な努力の賜物として成果が上がった。今後も継続して一部の負担になることなく生徒が活躍できる機会を増やし、成功体験を通じて達成感・自己有用感を養わせつつ「成果から伝統へ」チャレンジしたい。各種検定については、受検機会がコロナ前の水準に戻りつつある。すでにジュニアマイスター顕彰シルバーに手が届いている者が5名、ブロンズが10名近くいる。今後も難関資格へのチャレンジと合格できる環境整備に努めたい。 ・新工マイスタープロジェクトに基づき地域産業界と連携・協働して工業教育の推進に力を注いだ。来年度も地域産業・地元企業に御支援・御協力を賜り、地域産業を支える次世代のものづくり人材の育成に尽力したい。
<p>(5) ICT環境</p> <p>YouTubeを利用して保護者も見たいかなような記事を載せる。保健便りの動画化や特別講演のコンテンツを載せる。全てを自校で制作するのではなく、他校のものを共有するように申し入れる。</p> <p>ICTは手助けになるもので負担になってはいけない。教育現場において正しく運用すべきだと思う。ICT機器を活用した授業を行っているのは良い。</p> <p>学校評価もスマホ等で答えられるようになると助かります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの動画制作は、保健委員の活動として有意義であるので実現したい。また、他校とのコンテンツの共有は協同活動が前提となるので、今後の課題として検討したい。 ・ICTは1つのツールにすぎないので、デジタル神話に傾倒しないようアナログ的な活動とのバランスを保っていきたい。SNSはYouTubeがイベント、インスタ・ツイッターは日常的な事柄の配信と、役割を分けて考えていきたい。 ・図書・研修課と相談しながら実現したい。

<p>(6) 特別活動</p> <p>コロナ禍で活動が制限される中、生徒の自己評価は良好であり、部活動加入率や全国大会出場などでも高い実績を上げており、素晴らしい。自己評価Bは妥当だと思う。</p> <p>生徒会役員を中心に自主的な活動をしているのは良い。生徒は達成感や豊かな人間性が育まれていると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で活動時間等に制限があったものの大会等はほぼ例年通り実施された。今年度は四国総体ということもあり、競技・補助員等でも活躍し、全国レベルを体感することができた生徒も多くいた。この経験を生かし、更なる高いレベルでの活動を期待したい。 ・生徒会活動等、自主的な活動が評価されているが、コロナの影響でボランティア活動等には制約があった。今後は、地域との連携も密にし、自主的・意欲的な活動を実践していきたい。
<p>(7) 生徒指導</p> <p>基本的な生活習慣や規範意識は家庭と学校で取り組むべきである。保護者や関係機関との連携も必要である。</p> <p>交通ルールやマナーの徹底に課題が見られます。中学校でも順守するように指導を継続していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関と連携して、粘り強く指導していく。 ・生徒への呼び掛け、街頭交通指導などにより交通ルール・マナーの徹底に今後も取り組んでいきたい。
<p>(8) 教育相談</p> <p>状況の厳しさから、自己評価Cとなっているのだと理解しているが、今後も粘り強く尽力していただきたい。</p> <p>教育相談室の活用は、なかなかできないと思うが、今後とも生徒が気軽に相談できる体制づくりを根気よくお願いしたい。</p> <p>特別支援教育について理解を深めることは、全ての生徒へのより良い指導につながる。特別支援体制を中高切れ目なく、整備していく重要性を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みがあって当然」「悩みがあることを恥じることはない」という意識づけを行い、どの教職員に対しても相談できる気軽な雰囲気づくりを行いたい。また、本校に限らず、外部の相談窓口についても周知している。 ・新居浜市教育委員会発達支援課の後援で、本年度から「中・高連携連絡支援シート」を用いて新入生の情報把握に努めている。
<p>(9) 人権・同和教育</p> <p>資料では人権だよりの発行が1回(予定)となっているが、目標の3回から変更したのは、どんな理由があったのだろうか。</p> <p>人権・同和教育に対する取組が地域の方にあまり発信できていないので数値が下がっているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染対策で8月のフィールドワークが12月に延期になった関係で、人権だよりの発行が遅れてしまったが、今後地域の方への発信を積極的に心掛けていきたい。
<p>(10) 進路指導</p> <p>昨年度と比較し、5%程度「進学率」が下がり、「就職率」が上がっていますが、先生方から感じられる生徒や保護者の意識の変化や要因等があればご教示ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の傾向を見ると、令和元年を除くと進学率は20%を超えている。これは、新居浜周辺地域には景気に左右されない企業が多く、家計に余裕ができて進学させる家庭が増えている結果であると考えている。

<p>(10) 進路指導</p>	<p>今回 20%を割った要因として、保護者の中には進学を選択肢として考えているが、子どもが就職を希望したことなどが挙げられる。進学・就職どちらでも選べる中で、今年度は就職に傾いた結果であると考える。</p>
<p>(11) 学校安全</p> <p>アンケート評価は良好であると思う。施設設備については巡視点検を行い、教育環境の向上・改善に努めてほしい。</p> <p>防災をとおして、生徒の危機管理意識が変化しており、実践的防災教育の大切さが感じられます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点検表を活用し、定期的な点検を行うことで、校内の事故を未然に防ぐよう対応したい。 ・防災では、ハザードマップなどを活用して新居浜地区の危険度を認識するようになったが、更に家庭でも防災について考える機会を考えていきたい。
<p>(12) 学校保健</p> <p>アンケート評価は良好であり、保健便りも 12 回発行予定である。他の項目との評価を考えると委員会活動の評価はBでもよいように思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も保健便りの定期的な発行や保健委員会の活動内容の充実を図りながら、情報発信を継続し、生徒が自らの健康に関心を持てるように工夫していきたい。
<p>(13) 学校行政事務</p> <p>予算が適正に執行されているのがよく分かる。アンケート評価は良好であり、自己評価は妥当である。想定外の物価上昇に対し、創意工夫によって効率的な施設設備の整備・改善に尽力していただきたい。</p> <p>教職員の超過勤務についてお聞かせ願いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物価の上昇が続いているため、予算の執行に優先順位をつけて対応している。金額によっては複数者の見積りを取るなどしており、今後も余裕を持って学校運営に尽くしていきたい。 ・超過勤務については、今後業務分担の見直し、業務の効率化を I C T も活用しながら行い、解消に継続的に取り組んでいきたい。
<p>(14) その他</p> <p>図書購入予算は年間いくらか、県からは十分な予算が出ているのか。設備等ハード面だけでなく、図書費等に力を入れるべきだと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県費予算は 19 万円であり、月刊誌 8 誌、新聞 2 紙の費用を除いた 9 万円で書籍を購入している。本年度新規に購入した書籍は 74 冊である。 ・書籍の値上がりもあり予算額は十分であるとは言いが、生徒数の減少もあり、増額は難しいと思われる。本年度は先生方に呼び掛け 100 冊程度の寄贈があった。新規購入の際は良質な書籍の厳選を心掛け、寄贈等の呼び掛けも続けていきたい。